



学校だより 仙台市立芦口小学校 40th

令和元年12月20日
在校児童数320名

学校教育目標：「共に学び合い、心豊かにたくましく生きる児童の育成」

NO.12

<協働型学校目標・重点目標>

心に届くあいさつを広げよう

982-0824 仙台市太白区芦の口1番1号
Tel 022-246-0858 E-mail asibue@sendai-c.ed.jp
HP <http://www.sendai-c.ed.jp/~asibue/>

いよいよ冬休み 12/25~1/7

先日の開校40周年記念式典には、たくさんの保護者の皆様や地域の皆様にご来校いただきありがとうございました。いよいよ2学期の前半が終わろうとしています。2学期には、学習発表会や児童会(委員会)が中心となって行った「きずなキャンペーン」など子供たちが活躍する場面がたくさんありました。校外学習や毎日の学習の中でも子供たちが活躍し、日々成長する姿が見られました。

いよいよ、25日から冬休みとなります。大掃除や大晦日、お正月、初詣といった日本の伝統的な行事に触れる大切な機会でもあります。体調に留意し、子供たちにとって有意義で思い出深い冬休みとなることを願っています。そして、新しい年の始まりに希望を大きく抱いた、たくましい顔の子供たちに会えることを楽しみにしています。

今年一年、皆様からたくさんのご協力や子供たちに向けた温かいお声掛けをいただいたことに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。また、来年も引き続き皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。それでは、よいお年をお迎えください。



体育委員会によるあしりんピック



手でタッチのあいさつ運動

祝 開校40周年記念式典 11/30

11月30日(土)に芦口小学校開校40周年記念式典が行われました。保護者の皆様、地域の皆様にも多数ご臨席いただきありがとうございました。児童にとっては、学校の歴史・伝統を振り返るとともに、もっと良い学校を目指して頑張ろうという気持ちを高める機会となりました。

本校卒業生の浅野祥さんによる記念コンサートでは、迫力ある津軽三味線の演奏と当時を振り返るお話に会場中が引き込まれました。奥様との出会いの話に、子供たちの顔もほころび、興味津々で話を聞いていました。自分たちの先輩が世界で活躍していることや今でも芦口小学校や地域を大切に思っていることを知り、学校や地域への思いを深めることができました。

芦口小学校の自慢でもある「心に届くあいさつ」を更に地域に広げていけるよう子供たちとともに頑張っていきたいと思えます。



実行委員長あいさつ



40周年記念制作



浅野さんによる三味線の演奏



芦口体操の披露

《1月の予定》

月	火	水	木	金	土	日
<1・2月の生活目標> 寒さに負けず 元気に過ごしましょう		1 元日 学校閉庁 冬季休業日 1/7まで	2 学校閉庁	3 学校閉庁	4	5
6	7	8 学校集会	9 給食開始	10 芦ぶえPJ (土手内)	11 体育館 土曜開放	12
13 成人の日	14 SC 来校	15 読み聞かせ 6年租税教室 委員会活動	16 ラジオ体 操 ALT 来校	17	18	19
20	21 たてわりリーダー会	22 3年校外学習 歴史民俗資料 館	23	24	25 体育館 土曜開放	26
27 代表委員会	28 たてわり活動 SC 来校	29 特別タイム4校時限	30 ALT 来校	31		

第2回学校評議員会を開催しました

12月4日(水)の授業参観には、たくさんの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。子供たちの学習の姿から成長を感じていただけましたでしょうか。

さて、同日に第2回学校評議員会を開催しました。協働型学校目標や学校教育目標に係る学校の取組や児童の姿を紹介し、学校評議員の皆様から以下のようなご意見をいただきました。

- 地域のできる取組としては「あいさつ」が一番よいと感じている。毎朝30分くらい猫を抱いて家の前に立っていると、子供たちが寄ってきて会話をするようになる。通勤者や高校生もその姿を見て挨拶をしている。挨拶をしやすくするきっかけがあるとよいと思う。
- いじめ防止策としても、芦口小学校で取り組んでいる子供たちの委員会活動は有効であると感じる。子供たちの企画による自主的な取組がよい。
- 地域も関わって進める「あいさつ運動」にするためには、顔なじみになることが大事である。町内会と子供会が連携して芋煮会や自主防災訓練に取り組むことができた。子供会の保護者の方に積極的にお手伝いをいただいたおかげである。
- 学校で取り組んでいる「心に届くあいさつ」や「ふれあいお弁当の日」などの考え方が、地域や保護者を巻き込んでよい形で進んでいる。
- 現在の取組の日常化のためには、家庭や地域へ呼び掛けを行いながら理解を得る必要がある。学校での取組を発信しながら、保護者や地域の方が主体的に取り組める動きに発展できるとよい。そのための声掛けや仕掛けを工夫してほしい。

